

# 室内環境における新型コロナウイルス感染対策WGの発足

## 室内環境における新型コロナウイルス感染対策WG

### 1. はじめに

新型コロナウイルスの感染が世界中で猛威を振るい、感染拡大を防ぐための対策が喫緊の課題となっている。日本においては、活動の自粛による感染拡大防止から、自粛を緩和し、社会経済活動と感染対策を両立するフェーズに移行していくなかで、第2波、第3波を防ぐために、科学的エビデンスに基づいた感染対策の必要性が高まっている。新型コロナウイルスの感染の多くは室内空間で起きているため、室内環境における感染対策は非常に重要な意味を持つ。室内環境学会は、室内における人の健康保護を目的として研究活動を推進しているため、これまでの活動経験、知識、人材を活かして、積極的に、有効な感染対策を示す責務がある。このような緊急時において、室内環境学会では、活動を機動的に遂行するために活動ごとに時限的にワーキンググループを設置することができる。そこで今般、室内環境におけるコロナウイルス感染対策WGを発足させ、感染対策に資する研究や議論を行う場を設けた。WGの活動により、具体的で有効な新型コロナウイルス感染対策を提案することを目指している。

### 2. 設立趣旨

新型コロナウイルスへの感染による自粛が続く中、今後の自粛緩和時の交通機関や公共施設等における対策に資する研究や議論を行う場として設立する。換気や気流についての検討や、接触感染も含めた感染経路を考慮したリスクの把握など、室内環境に関わる感染対策について、様々な観点からスピード感をもって研究の実施と議論を行い、対策に資する情報を発信していく（申請書に基づく）。

### 3. 活動計画

室内環境における可能な感染対策は、室内の環境管理が主となるため、様々な室内環境における新型コロナウイルスの感染の実態についての情報が必要となる。過去の感染症の流行における知見や日々進捗している新型コロナウイルス関連の研究により、有効な感染対策についての情報が発信され、功を奏しているといえるが、定量的な議論はまだ十分でないため、社会経済活動との両立において隘路となる。そこで、様々な室内環境において、実態調査やシミュレーションによって、室内でのウイルスの動態を解明し、人への到達経路の寄与を明らかにする研究を推進することを第一目標とする。その他、関連する様々な要素についてもWGの中で随時、課題として挙げられるようにし、研究体制を整備して、研究活動を促進していく。最終的には、実際の対策に資するような具体的な提案に結実させることが目標である。現在のところ、以下のような活動を計画している（申請書および申請時提案に基づく）。

- ・ 公共施設及び公共交通機関の設備内における換気及び粒子の挙動に関して情報収集・調査を実施する。
- ・ 感染期に災害が起こった場合の避難所において、どのように感染防止策を取るべきかに資する研究を実施する。
- ・ 感染感染・飛沫核感染（空気感染）・直接接触感染・間接触感染の各感染経路からの感染リスクに関して情報収集・評価を行う。
- ・ 上記の研究に基づき、対策に資する情報を発信する。
- ・ その他、新型コロナウイルス感染対策に資する情報収集・研究を実施する。

#### 4. メンバー

現在、以下のメンバーで活動をしている。

代表：篠原 直秀（産業技術総合研究所），幹事：橋本 一浩（エフシージー総合研究所）

メンバー（50音順）：東 賢一（近畿大学），伊藤 一秀（九州大学），岡本 誉士夫（ダイキン工業），鍵 直樹（東京工業大学），金 勲（国立保健医療科学院），坂口 淳（新潟県立大学），関根 嘉香（東海大学），達 晃一（いすゞ自動車），中島 大介（国立環境研究所），水越 厚史（近畿大学），渡辺 麻衣子（国立医薬品食品衛生研究所）

メンバーは随時募集中である。

#### 5. これまでの活動

WGの発足に先駆け、学術委員会にて「新型コロナウイルスの感染対策に有用な室内環境に関連する研究事例の紹介」を室内環境学会ホームページにて公表した（<http://www.siej.org/sub/sarscov2v1.html>）。この記事は「室内環境」本号にも掲載されている。また、特に法人会員の皆様に向けて、室内環境学会に対しての新型コロナに関する疑問点、室内環境学会として取り組むべき課題、共同研究のご要望等について、アンケートを行っている。調査研究についても具体的に計画が進行中である。WGホームページ（<https://sites.google.com/view/sars-cov-2wg>）を開設し、こちらに最新の情報を掲載していく予定である。

#### 6. おわりに

本WGでは、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の現状に基づく室内環境における感染対策のニーズの緊急性を踏まえ、WGの特性を活かして、共通の目標に向けて迅速な活動を行い、実効性のある具体的な対策を提言していくことを心がけていく。また、本問題は未知の事象を多く含むため、課題の探索、集約と整理、体制の構築をWGの活動として位置付けることが重要であると考えている。そこで、共同で行いたい研究、解決してほしい課題、ガイドラインの希望等、WGへの要望を学会までお寄せいただければ幸いである。また、WGへの積極的な協力、参加もお願いしたい。なお、その際の情報の管理については細心の注意を払っていく所存である。

（文責：水越厚史）